

読のお申し込み
120-026-999
集金お問い合わせ
3-6910-2556
告のご用命
3-6910-2489

素晴らしい眺望と華やかな雰囲気。
二重橋前で楽しいパーティを。

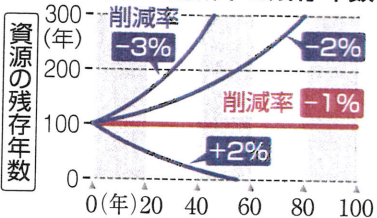
皇居二重橋前
東京會館

〒100-0005 千代田区丸の内3-2-1 ☎03(3215)2111 <http://www.kaikan.co.jp>



大都市での暮らし 縮小考える機会に

資源使用量の削減率と残存年数



松久寛さん

松久寛さんの話 化石燃料が百年分あったとして、年1%ずつ使用量を減らしていけば、計算

未来にツケ残さぬため

上、五十年後には使用量が60%に減り、永遠に百年分が残る。1%以上減らしていけば残存資源の使用可能な期間は伸び、資源争奪競争を回避できる。人口が縮小していくのに、未来にツケを残しているのか。倫理の問題だ。

もはや「持続可能」でなく「縮小社会」を目指す時期。京都を中心に活動する一般社団法人「縮小社会研究会」(京都市左京区)が11月2日、文京区の根津教会で研究会の東京大会を開く。作家の森まゆみさんが講演する。(原尚子)

「谷根千」に注目

研究会は二〇〇八年、会長を務める松久寛・京都大名誉教授(振動工学)を中心に、工学・経済学・農学の研究者約三十人で発足。物質的成長の限界と生活の縮小を訴え、毎月研究会を開催し討論を重ねてきた。一二年三月の東日本大震災以降、一般の社会人や主婦らの参加も増えているという。

松久さんは「人口が集中する大都市で、どう暮らして縮小するかを考える機会に」と東京開催の意義を語る。文京区根津・千駄木と台東区谷中の地域雑誌「谷根千」(一九八四〜二〇〇九年)で、町の身近な営みを見つめてきた森さんに講演を依頼した。

「工学の議論は常に拡大が前提で、年5%の成長でも百年で百三十倍になる。だがもう成長の余地はなく、このままでは破滅に向かう」と松久さん。「『谷根千』のように、既存のものを大事にするという方向性が大切」と語る。当日は午後二時から、松久さん、森さんが講演し、その後パネル討論会。午前中に谷根千の街歩き企画もある。申し込みは、縮小社会研究会のホームページ <http://shukko.org/> = 610。

根津で2日 作家・森さんが講演会

研究会の成長でも百年で百三十倍になる。だがもう成長の余地はなく、このままでは破滅に向かう」と松久さん。